

会 議 録

会議の名称	平成29年度 第1回公民館運営審議会
開催日時	平成29年5月25日(木) 午後2時00分～午後4時00分
開催場所	市役所3階 全員協議会室
出席者の氏名	別紙のとおり
欠席者の氏名	別紙のとおり
説明者の職・氏名	
議 事	(1) 公民館事業について ①各公民館の事業内容について ②地域づくりにつながる公民館事業 (2) その他
会 議 資 料	資料1 平成28年度公民館運営審議会の協議から(意見まとめ)抜粋 資料2 子ども会育成者地域研修会 日程一覧 資料3 平成28年度 第70回所沢市成人のつどい出席者数
担 当 部 課 名	教育長 内藤隆行、教育総務部長 美甘寿規、教育総務部次長 師岡林、松井 まちづくりセンター長 森田喜良、富岡まちづくりセンター長 斎藤 洋一、 小手指まちづくりセンター長 佐藤尊之、山口まちづくりセンター長 仲正 之、吾妻まちづくりセンター長 比留間嘉浩、柳瀬まちづくりセンター長 鈴 木明彦、三ヶ島まちづくりセンター長 森澤宣行、新沢まちづくりセンター 長 澤田孝男、新所沢東まちづくりセンター長 酒井忠夫、所沢まちづくり センター長 内堀耕介、並木まちづくりセンター長 阿部美和子、生涯学習 推進センター所長 倉富恵理子 教育総務部社会教育課 社会教育課長 安田幸雄、主査 守野豊、主査 石井のぶ江 教育総務部社会教育課 電話 04(2998)9242

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
部長	<p>1 開会</p> <p>社会教育課長の司会により開会した。</p> <p>2 あいさつ</p> <p>本日は第一回公民館運営審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。まちづくりセンター長3名の異動があり、新たなスタートを切っております。また今回は、社会教育委員との合同の会議を開催し、様々なご意見をいただきありがとうございました。まちづくりセンターにまちづくり協議会等が立ち上がり、さらに地域の方に密接した事業を行うような取り組みが公民館に求められているところでございます。本日は公民館事業の内容について、また、地域づくりにつながる公民館事業について、ご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>続きまして、内野委員長よりご挨拶をいただきます。</p>
委員長	<p>本日は今年度第1回公民館運営審議会と同時に委員の皆様任期最後の会議になりますが、皆様大変お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。昨年度は地域づくりにつながる公民館事業というテーマで審議を進め、2月には初めての試みで社会教育委員さんとの合同会議がございました。家庭教育をテーマにいろいろな意見交換を行いまして、大変有意義な会議だったと思います。本日の資料の平成28年度事業報告にあるように、公民館長をはじめ職員の皆様にはいろいろな事業の展開をいただいております。本日は、会議のテーマに沿って進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日は山本委員、斎藤委員、梁瀬委員、倉持委員より欠席のご連絡をいただいております。続きまして、公民館長である「まちづくりセンター長」に異動がありましたので、新しく任命されたセンター長に自己紹介をお願いします。</p> <p>（松井まちづくりセンター長、小手指まちづくりセンター長、三ヶ島まちづくりセンター長自己紹介）</p>

司会	議事に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。 (配布資料の確認)
司会	ここから議事に入りますので、委員長に議長をお願いいたします。なお、本日の議題につきましては、公開で進めることとなっております。
委員長	<p>3 議事</p> <p>(1) 公民館事業について</p> <p>① 各公民館の事業内容について</p>
事務局	「各公民館の事業内容について」事務局より説明をお願いします。
事務局	資料の平成28年度公民館事業報告集を参考に、各まちづくりセンター長より各公民館の事業につきまして、説明をお願いします。また、現在、事業を行う上で、課題となっているような事項がありましたら、そのことも併せて説明していただければと思います。
館長	<p>事業報告集の48、49ページの松井公民館の主な事業3つを紹介をさせていただきます。1つ目の「シリーズ星をみよう」ですが、松井公民館の屋上にある広場で、毎年2回夏と冬に学習を行った後に天体観測を行っております。夏には夏の星座と月と土星の輪、冬には冬の星座と火星・金星・月を観察し、空気が澄んでいるときには、東京スカイツリーが小さいながら見えるということで、好評をいただいております。主な対象は小学生ですが、近年では大人の参加者があり、昨年度はのべ51人の参加がありました。ただ天候に左右されやすいということで、その点が難しいところがございます。</p> <p>あと2つは障害者が対象の事業でございます。まず、49ページの「障害者学級くれよん」ですが、障害者と健常者が交流し社会性をのばすことを目的として、毎回ボランティアスタッフの協力により実施しております。参加者は平均して十数名でございます。毎回趣向を凝らしまして、カラオケ大会やクリスマス会などのイベントを実施しております。去年は10月に野外活動として秩父へブドウ狩りに行っており、参加者に大変喜ばれた充実した事業となっております。近年ではスタッフの参加が減少していることが課題となっております。もう1つ「松井リハビリ交流会」ですが、疾病により中途障害者となった方々が自宅で引きこもりにならないようにすることを目的とし、毎月第一木曜日に開催しております。保健センターの成人保健課と共催で行っており、航空公園でお花見をしたり、マジック・社交ダンス鑑賞をしたり、正月には人間す</p>

館長(続き)	<p>ごろくなど楽しい催しを行っております。参加者からは、楽しい時間が過ぎたという感想をいただいております。参加人数は月によってばらつきはありますが44人程度となっております。今後は魅力あるプログラム作りが課題となっております。</p>
館長	<p>平成28年度に富岡まちづくりセンターで行われました主な公民館事業につきまして説明させていただきます。まず24ページ、夏休みに子どもたちに様々な体験をしてもらうことを目的としました「とみおかキッズ☆チャレンジ」を開催いたしました。一番上からヒップホップダンス、アクセサリーづくり、ピザとデザートづくり、万華鏡作り、スポーツ吹矢、保冷材を使った「小さな世界」づくりなど6種類のプログラムを用意したところ、申し込みが殺到しまして、キャンセル待ちが出るほどの大人気の講座となりました。</p> <p>次に28年度に新規事業として、24ページの小学生を対象とした「クリスマスキャンドル講座」、25ページの0歳児の赤ちゃん和妈妈を対象に行った「ベビーマッサージ」、親子を対象とした「親子手打ちそば教室」、26ページの「初級手話講習会」を開催しております。また、25ページの平成28年度で2年目の開催となる「とみおか元気計画!」では、元気な体づくりをテーマに顔ヨガと足つぼマッサージを開催しております。どの講座も人気で、参加者からは次年度以降も実施してほしいと声があがっているところでございます。</p> <p>次に、27ページの地域が一体となって行われる「富岡地区体育祭」では、富岡地区にあります全18自治体が参加しまして、熱い戦いを繰り広げながら交流を図る場となっております。昨年度は、当日雨天のため中断し、1種目のみで終了となりました。平成29年度につきましては第60回の記念の大会でございますので、より一層盛り上がりのある体育祭を目指して検討してまいりたいと考えております。最後に同じく27ページの「富岡三世代まつり」を2月に開催しております。コマ回しやお手玉などの昔懐かしい遊びを通して、子どもから大人まで三世代の方々の世代間交流を深めることができる行事となっております。毎年好評を得ております。</p>
館長	<p>次に小手指公民館の事業を紹介させていただきます。私はこの4月に館長となりましたが、以前に小手指公民館分館で担当をしており、10年ぶりに戻ってきたところです。まず小手指公民館のいわゆる本館と呼ばれているところでの事業です。14ページの「ふうじ・はた作り教室」ですが、小手指小学校区内の育成会が行う事業を小手指区内の小学生にも知ってもらう目的で、近くにある北野天神社で行われている伝統行事を公民館の事業として開催し、後世に</p>

<p>館長(続き)</p>	<p>継承していこうというもので、新規事業として行ったものです。</p> <p>また、19ページの一番下「小手指ジャンボリー」は、異年齢の子どもたちの交流事業ということで、対象年齢を中学生まで広げまして、小手指まちづくり協議会青少年育成部会と共催で行いました。事業自体は謎解きオリエンテーリング、かるた大会ということで子どもたちが楽しめる内容で交流を図った事業でございます。</p> <p>続きまして分館の事業になりますが、14ページ「小手指保育スタッフ研修会」です。以前は市で実施していたものですが、しばらく実施がなかったことを受けまして、小手指公民館の主催事業に協力いただいているスタッフを集めて研修会を12月に行いました。その下の「花粉の季節をアロマですっきり」では、花粉の時期である3月中下旬に花粉対策で使えるアロマスプレーづくりを行いました。次に、17ページの「小手指すくすくランド」は1歳児を対象とし、テーマを設けたサロン形式で2月中旬から全5回実施いたしました。もう一つテーマを決めた子育てサロンとして、18ページの「子育てサロン『仕事復帰するママの会』」を12月に開催しました。4月から仕事復帰する新生活に不安を抱える親子に向けて行ったもので、非常に好評を博しました。</p> <p>分館は他のまちづくりセンターと違いまして地区の公民館の性格はなく、公民館という名前の残っている唯一の施設ですが、この5月に利用者の会が解散となりまして、利用者の相互の協力で行われていました文化祭といった事業を今後どのように開催していくかが課題となっております。また松井公民館などでも実施している「リハビリ交流会」ですが、ボランティアスタッフの担い手の高齢化が課題と感じております。10年前と比べると公民館事業が講座形式の事業に傾いていると感じております。昔ですと講座に参加している方に、地域の交流事業に参加してくれませんかと声をかけることが多かったのですが、それができなくなってしまったと感じております。ボランティアスタッフを探す機会をどうしていくのが課題と考えております。</p>
<p>館長</p>	<p>山口公民館につきましては71ページから76ページまでとなります。まず初めに山口公民館では、他の公民館では見られない特徴として山口公民館の利用者で組織されているサークル連絡協議会と公民館との共同作業というものがございます。毎年多くの利用者の方々が自主的に参集していただいて職員とともに掃除等を行うというものでございまして、5月、9月、12月に行いました。また文化祭や講座などにも企画の段階からサークルの方々に協力していただきまして、地域と一体となって実施しています。28年度では「フォークダンス体験教室」をフォークダンスコリードというサークルと共催して開催しました。29年度は「みんなで踊ろう夏祭り」をサークル連絡協議会と山口民謡</p>

<p>館長(続き)</p>	<p>レクレーションの両者と共催で行います。</p> <p>次に、72ページ「子ども囲碁教室」では、若干減ってきているものの年間のべ107人の参加がありました。同じページの「フラワーアレンジメント」には、子ども対象と大人対象の二つの事業がございます。大人向けの事業では初心者を対象に22名の方にご参加いただき、作品は文化祭で展示して地域の方に鑑賞していただきました。子ども向けの事業では、小学生以上の方を対象に17名の方に参加していただき、好評をいただいております。同じページの「とこしゃんクラブ」は平成28年度で200回の実施に到達した事業で、年間延べ人数は840人という人気のある事業となっております。高齢者の方を対象に簡単な運動を取り入れ、山口地域包括支援センターのスタッフの支えにより持続的に好評を博している事業でございます。</p> <p>73ページの「つきいち交流フィーカ」では、子育て中の親の間で情報交換を行って、孤立化しないよう親同士のつながりを深めていくということを目的に年8回実施しております。お菓子作りやハーブティー作りなどは、親たち自らが企画して、講師も自分たちが務めるという内容になっており、将来的に自立したグループ活動になってほしいという思いがございます。これからも地域活動をしていく方々を増やしていくという点も見据えながら実施していきたいと考えております。</p> <p>それから「ふれあい昼食会」についてですが、民生委員の方が多く所属する「ふれあいの会」会が中心となり、70歳以上の方を対象に10月に2回実施しております。2回とも募集人員90名が満員となりました。この昼食会には市長・教育長もお呼びし、会場のホールでスタッフが作ったお弁当を食べながら、単身世帯の高齢者は和気あいあいとした交流をしています。</p> <p>74ページの「山口地区ふれあいスポーツ大会」ですが、体育協会・各自治会・町内会のスポーツ推進委員が中心となって実施する運動会となっております。昨年は山口中学校の体育館をお借りして280人が参加し、従来よりも高齢者や子供が楽しめるような競技を増やして実施いたしました。スポーツを通して三世代の絆をつなぐ事業として、今後も自治会・町内会と連携して少しずつ参加率を増やしていければと考えております。</p>
<p>館長</p>	<p>吾妻公民館の事業は31ページから38ページとなります。初めに「吾妻教養講座 地域一受けたい授業特別授業 久米の歴史～その生い立ちと時々の物語～」は、いろいろな分野を学ぶことにより、学ぶ楽しさを知り、生涯学習のきっかけとなること、学習を通じて他人との交流を図ることを目的として開催している吾妻教養講座の特別編で、所沢市紡ごう絆地域応援事業補助金を活用し発行された「久米の歴史」を教科書に、編集にかかわった文化財保護委員</p>

<p>館長(続き)</p>	<p>をされていまして下田博之先生を中心に講師をお願いし、地域理解を深める事業として進めてまいりました。この教養講座は、地域の歴史文化のほかストレッチ体操や栄養学などジャンルを問わない講座として展開しております。</p> <p>次に仲間づくりや地域を知ることがを目的に吾妻地区はもちろんのこと、小手指や三ヶ島地区なども散策する「所沢探訪」を開催しました。この所沢探訪の目的は、参加者が一緒に歩くことでコミュニケーションが深まり、地域を歩くことでその地域への理解や興味も深まると考えた事業でございます。</p> <p>地域コミュニティ事業としましては、コミュニティビジネスについて理解を深めることを目的に、市民活動支援センターとの共催事業「市民活動をビジネスへ」の開催。高齢者や障害者が閉じこもりになることを防ぎ、仲間づくりのきっかけとなることを目的とした「吾妻地域交流会『茶の実ひろば』」。お茶を飲みながら世間話をして介護予防や地域コミュニティの推進の効果がある「おしゃべり広場『ひなたぼっこ』」の開催や特に平成28年度より、これまでの公民館サークル主体の文化祭ではなく、吾妻地区自治会・町内会が協賛し、公民館サークルはもちろんのこと吾妻地区内の中学校や高校、吾妻地区内で活動する団体などが参画し、地区全体が一体となった文化祭を開催することができました。</p> <p>その他にも多くの支持を受け毎月定例で行っている事業として、子育て中の親子の交流・仲間作りの場、初めての子育て中の保護者の支援となる「子育て広場」や音楽を通じ寝たきりや引きこもりを防ぎ、地域コミュニティの推進をはかることを目的とした「音楽ひろば」など、地域コミュニティ・まちづくり・仲間作りを中心に様々な講座・イベントを開催しました。今後も吾妻公民館では新たな事業を進めるにあたり、講座終了時に参加者にアンケートを募り、次年度の講座の参考とし、多様化する市民ニーズに対応して事業を進めたいと考えております。</p>
<p>館長</p>	<p>柳瀬公民館の内容につきましては、39ページから46ページとなります。柳瀬地区におきましては公民館で毎年様々な講座を実施しておりますが、その中でも特に人気のある講座といたしましては41ページ・42ページの「健康体操」や「男性向けのフィットネス」「転倒防止の運動教室」となっており、これらは毎回多くの方にご参加いただいて、健康に対する意識の高さが伺えるものでございます。それ以外に、特に柳瀬地区は昔から地域内のつながりが強いと感じている方が多く、つながりや世代間交流を感じさせる公民館事業がございます。その中でも特徴的な事業を二点紹介させていただきます。</p> <p>まず一つ目が「柳瀬地区体育祭」です。柳瀬地区では地区の体育祭と中学校の体育祭を合同で実施しており、これまで15回開催し、子どもから高齢者ま</p>

<p>館長(続き)</p>	<p>でが気軽に参加できる種目から各地区対抗の種目まで盛りだくさんとなっております。中学生のクラス対抗の種目もございまして、地域の方からは学年に関係なく大声援が送られております。地域の方と中学生・小学生がつながりを持ち、顔見知りになることで日頃の安心・安全に関する「見守り」という点でも一躍かっているのではないかと考えられます。</p> <p>もう一つは40ページの食育に関する事業でございまして、「麦刈りから食卓まで」という年間を通した事業です。こちらは地域の方々に構成されている、柳瀬民俗資料保存会のご協力と周辺の3つの小学校と公民館とが連携を図って行っている事業でございます。まず、6月に前年度の11月に麦まきをした麦刈りを鎌で行い、刈り取ったものは昔に行っていた方法で束ね、その後2週間ほど後に脱穀作業を行います。その際には柳瀬民俗資料館に保管されている足踏み式と発動式の脱穀機を麦畑に持ち出し、脱穀作業を行います。作業は柳瀬民俗資料保存会の皆様の指導により行い、小学生・保護者の方、3つの小学校の校長先生をはじめとする教職員の方々によって進められています。そして脱穀された麦は製粉所に持ち込み粉にします。11月には翌年度のために麦まき作業を行います。同時に収穫祭と銘打って、子どもにうどん作りも体験させ、最後には子ども・保存会の方・地域の方・先生方みんなでうどんを味わっております。10年ほど前に事業の参加者であった方が今は大学生となり、ボランティアスタッフとして参加したいという申し出が2名ございました。このようなつながりを持って少しでも人材育成につながればと期待しており、今後も継続できたらと考えております。</p> <p>現在の課題としましては、PR方法を拡大するなど、参加者が少ないものは内容の一部見直しや開催時期の再検討を行っておりますが、参加者の固定によるサークル化傾向がみられるものもございまして、今年度から実施日を土曜日等に変更したり、対象者を親子にしたりと工夫して実施していく予定です。また3月より柳瀬まちづくりセンターのフェイスブックを開設しておりますので、そちらでも地域同士の開催予定や講座の実施報告・募集案内等を掲載して、公民館の講座等への参加する方を募っております。</p>
<p>館長</p>	<p>三ヶ島公民館の事業は63ページから70ページになります。この中で昨年度好評だった事業を3つ紹介させていただきます。1つ目に、64ページの「元気大学」では、地域の方々に様々な学習の機会を与えるとともに、参加者の交流を目的とし、年間10回の講座を開催いたしました。内容としては市民課の職員によるマイナンバーについての講座、自然観察会、歌声ひろばなど参加人数が多く充実した講座となりました。</p> <p>2つ目に、三ヶ島地区も高齢化が進む中、高齢者を対象とした事業として「元</p>

館長(続き)	<p>気が出る体操」、「イスに座ってできる体操」を週1回実施しておりまして、年々参加者が増えているところでございます。</p> <p>3つ目は、66ページの「音楽会」ですが、これはクラシックと日本の歌を生演奏で気軽に楽しんでもらうという企画で、こちらの方も大変好評を博しております。今後の課題としましては、魅力のある講座を開催するためにアンケートをとっておりますが、その作り方について課題となっており、研究していきたいと思っております。</p>
館長	<p>新所沢公民館は55ページから62ページとなっております。まず、教養の向上では「フレッシュ・カレッジ『しんとこ』」を開催いたしました。毎年多くの参加者があり、最終回の「くるみ絵工作」では、初めての企画準備委員の自主企画でしたが非常にスムーズに展開できましたので、今後は企画準備委員を中心に運営を任せていきたいと考えております。</p> <p>次に体育・レクリエーションでは、70歳以上を対象とした「さわやか体操」を実施しました。年々参加者も増えてきてまして、閉じこもりがちの方も参加をきっかけに外出するようになったと聞いております。今年度はもう少し緩やかな「おしゃべり散歩」を今現在、企画・実施しているところでございます。</p> <p>次に家庭教育・家庭生活では、子育て中のお母さんを対象とした「子育てサロン」「子育て学級」を母子愛育班の方や地域のお母さん方のご協力のもと実施し、子育てに関する知識や先輩お母さん方の経験による貴重なお話を聞くことができました。また、出産を控えた夫婦を対象とした事業では「マタニティカフェ」を開催し、産前産後に役立つ情報や参加者同士の繋がりづくりの茶話会や情報交換を行いました。また育児世代の男性を対象とした「パパスクール」を開催しまして、父親の子育て、家庭参加を支援し父親同士の繋がり、仲間づくりの促進を図りました。</p> <p>市民意識・社会連帯意識では「子育てカフェ」を開催し小学校入学前の不安を抱えたお母さんに情報提供するとともに、カフェタイムでは情報交換の場を作ることができました。また、3日間にわたり開催した「広報講座」は、従来の対象であったPTAの方に加え、昨年度から広報活動にかかわることの多い自治会の方たちにも広く声をかけて、開催いたしました。次に小学3年生から中学生を対象とした「ワンパクスクール」では、社会性を身に付けてもらうことを目的に、調理実習や集団生活などを体験していただきました。</p> <p>次に59ページの「しんとこ夏フェス」では、文化・芸術・スポーツ体験を行っている公民館サークル団体に協力いただきまして、サークルに興味のある方々に体験会を行いました。これにより会員数の増えたサークル団体もあると聞いております。</p>

館長(続き)	<p>新所沢として今後の課題ですが、皆さんご存知の通り今年の1月に新所沢地区に子どもと福祉の未来館という大きな施設がオープンしました。こちらの施設でも子育てに関する事業を多く展開していくということで、今後、新所沢の公民館として子育ての事業について、再考しながら実施していかなければならないと考えております。</p>
館長	<p>新所沢東公民館については77ページからとなります。83ページの「マタニティサロン」をはじめ、「子育て学級」「子育てサロン」など子育て支援事業が充実していることは何度か紹介させていただいております。</p> <p>次に80ページをご覧ください。今回は「障がい者青年学級ふれあい広場」について紹介させていただきます。障害のある方もそうでない方も様々な活動を通して、仲間となり充実した楽しい時間を過ごしたいという願いから、平成2年に始まった事業で、月1回日曜日に開催し、約30年近く継続しております。学級生は30歳代から40歳代を中心に約20名おり、毎回8割から9割が参加しています。そして、約20名の大体60歳代のボランティアスタッフが活動を支えています。活動内容はお菓子作りや料理、小物づくりなど様々です。年に1回は貸し切りバスで館外活動も実施し、動物園や施設・工場見学などに学級生たちは朝バスに乗る時からワクワクしています。文化祭にも参加しており、毎年学級生たちが焼団子を焼いてくれます。先日、保護者会を開催したのですが、保護者からは「他の催しと重なってもこちらの行事に参加するほど楽しみにしています」というありがたいお声をいただいております。またスタッフも、お友だちを誘うことでスタッフの輪も広がっており、「行事を通して学級生の笑顔を見ることができてうれしい」という、微笑ましい言葉をいただいております。ボランティア活動の入り口としても気軽に参加してほしいという願いで随時スタッフを募集しています。地区の公民館企画運営委員会のご意見を参考に地域で支える活動の重要性を感じながら、今後もこういった事業を継続させていきたいと考えております。</p>
館長	<p>中央公民館の主な事業についてご紹介いたします。初めに6ページの「ナチュラルリッジクラブ」ですが、小学生が外で遊ぶ機会の減少などを受けまして、小学生を対象に自然観察や手打ちうどん作りなどの料理を体験してもらう事業です。これまでの訪問先としましては近隣の公園としていましたが、今年度は安全面に注意しつつ、川遊びなども企画したいと考えております。</p> <p>次に「子育て講座」ですが、就学前の2歳以上の幼児を持つ親子を対象に講師をお招きして開催しており、内容としては上手な褒め方・叱り方、手作りおもちゃやバルーンアートの作り方などでございまして、子育て中の保護者に少</p>

館長(続き)	<p>しだけ肩の力を抜いていただいくことなどを目的としています。</p> <p>次にイベント関係で8ページにあります「文化発表会」ですが、こちらは中央地区公民館連絡協議会と共催で2日間に渡りまして、開催しております。各町内の公民館で行っている講座や資料を発表したり、地元のアーティストを招いてコンサートを開催し、各公民館の親睦を図るとともに情報交換や共有の場ともなっております。</p> <p>次に9ページ「避難訓練コンサート」ですが、NPO法人シアターサポートと共催で平成28年度に初めて実施いたしました。ホールでのコンサート中に強い地震と火災が発生したことを想定して、安全なところまで避難する訓練となっております。参加者が少なかったことから、今年度は周知方法などを工夫して実施していきたいと考えております。</p> <p>最後に10ページのスポーツイベント関係で、体育協会中央支部・体力づくり中央支部の共催により「中央地区体育祭」「グラウンドゴルフ・ペタンク大会」を実施しております。大変多くの方にご参加いただきまして、好評を得ています。</p>
館長	<p>並木公民館は86ページからとなります。教養の向上といたしまして「文学講座」では「紫式部日記」を行いました。文学的な教養講座の人気は高く、熱心な受講者が多いこととなりました。新規の事業といたしまして、シニア対象にタブレット・端末の操作方法を学ぶ講座を8月に行いました。タブレット端末を使ったことのない方を対象としたのですが、大勢の方の申し込みがありました。屋内で行う体育・レクリエーション活動の講座といたしまして、毎月2回の「とこしゃんクラブ」、女性のための講座として2月・3月に「こころとからだのバランス運動」を行いました。こちらは簡単な体操を組み合わせた無理のないもので、参加者の心と体の健康を考えました。</p> <p>家庭教育といたしましては、子育てに関する不安や孤立感の軽減を目指し、毎月1回の「あかちゃんひろば」及び春と秋のそれぞれ連続5回講座として「0歳児の子育て講座」などを開催いたしました。子育てに関する講義を行うとともに、保護者の仲間作りもできるような内容としました。また28年度はママサークルというサークルができて、自主的な活動を続けております。子ども向けのイベントとしましては、1階にありますさくら児童館と共催で、ホールにて8月7日に「さくらなみき夏まつり」を開催いたしました。幼児・小学生・親で110名の参加がありました。</p> <p>疾病による中途障害者と家族を対象としまして、リハビリを兼ねた社会参加の場である「並木リハビリ交流会」を毎月1回行いました。91ページでは、年間プログラムの紹介と写真を掲載しています。28年度からセンターのホー</p>

館長(続き)	<p>ムページへの写真掲載を始めたことによりまして、参加者・写真撮影者の励みとなっているとともに、残念ながら欠席をした方にも参考になるということで好評でした。</p> <p>ホールの事業といたしまして「大蔵流狂言の世界」では、山本則俊氏他による狂言の会を行い、身近な場所で伝統芸能を堪能できる機会となりました。地域全体のスポーツレクリエーション活動としまして、10月に「並木ふれあいフェスティバル」を行い、公民館活動及び地域の文化活動の交流の場として11月の初旬に「並木地区文化祭」を行いました。これは28年度から「公民館まつり」の名称を変更して行ったものです。今年度からは公民館利用者のほかに地域の発表の場として広げていきたいと考えているところです。</p> <p>また年間を通じて各種スポーツ大会を行い、地域の交流を図りました。年間では29事業、のべ4,883人の参加でした。</p>
委員長	<p>ただ今、各まちづくりセンター長から、各公民館事業について説明いただきましたが、今ご説明いただいた事業を含め、興味を持たれた事業がありましたら、委員の皆様からご意見や質問をお伺いできたらと思います。</p>
委員	<p>同じことをやっても各公民館で内容が異なり、同じ所沢市内でも地域性が活かされていることを改めて感じました。実行委員会として行われている事業、団体と公民館が協力して行っている事業、公民館が主となって講師をお招きして行っている事業などいろいろなタイプの事業が一緒に書かれているかと思うのですが、参加者の方からすると、公民館がやってくれているからお客様として参加できるという事業や、継続性の面から言うと単発の事業に参加者が偏りがちだと思います。そして、先ほど小手指のまちづくりセンター長からお話があったように、参加してもらった人に声掛けをして、地域のボランティアをやらせようということがしにくいとか、自主事業として独立し、継続してもらうところに話を持っていくのが難しいのかなと、新所沢でも感じております。ただその努力をしていかないと公民館に足を向けてみようと思う人が出てこないと思います。今はお金を出せば楽しいサークルがたくさんありますが、公民館の事業に目を向けてもらうために、公民館や関わっている私たちが仲間となり、人が人を呼ぶということを大切にしていけないといけないなと思いました。</p> <p>講座がいろいろある中で、お父さん、お母さん、若い世代の人たちに目を向けているということがわかるので、これからも大事にしていって、つないでいくという意味ではいろいろな世代の人たちにお声かけしていくことが大切だと思いました。</p>

委員長	他にはいかがですか。
委員	<p>うちは小手指地区で、去年からラケットテニスの大会があり、私も参加しました。月1回の事業に1年間参加して12月に大会があり、その中で好きな人がサークルで別に練習して、常時来ている人は20人くらいのメンバーで体を動かしています。新規事業です。</p>
委員	<p>柳瀬公民館で「麦刈りから食卓まで」と書いてあるのですが、私も麦を作っているのですが、是非今度麦刈りから脱穀、収穫までを教えていただけたらと思います。私は麦を作るのだけは知っているのですが、その後のうどん作りまでは全然わからないものですから、是非呼んでいただけたらと思います。</p>
委員	<p>是非参加してください。口でしゃべるよりも実際来て、体験するのが一番よろしいかと思います。農家ではない方にとっては、麦まきや麦刈りは経験したことがないことなので、子どもだけでなく大人にとっても貴重な良い体験になると思います。</p> <p>これは公民館事業と別ですが、先日、柳瀬小学校3年生を対象にタケノコ掘りを学校と竹林を守る会と一緒に授業の一環として行いました。本郷の丘陵地帯に竹林がありますので、子ども5、6人が一つのグループになって、そこに大人が入ってタケノコを掘ったのですが、ほとんどの方が初めてだったでしょうし、貴重な体験だったのではないかと思います。今年は、竹が不作で探すのに苦労しました。それから、魚や野菜と同じで採りたてのタケノコは美味しいですね。私も初めて気が付きました。小さいころから食べているからタケノコなんて大したことないと思っていたのですが、帰って家で食べたら非常においしかったです。</p>
部長	<p>今「麦刈りから食卓まで」という話が出たので、参考になるかわかりませんが、これは柳瀬民俗資料保存会の方たちが協力している事業です。民俗資料館というのは市内に3か所ございまして、市でも3月議会で条例化して、市の職員が1人入り貴重な地域に残る民俗といったものをきちんと整理して保存していこうと考えています。いわゆる文化財と言っても色々なものがありますが、昔の人が使っていた道具を使って麦を刈って実際に脱穀などを体験することは、子どもたちの共同学習の一つとして本当に良いと思います。それから年配の方が参加しても、ある意味回想法のように昔の道具を使うことで意識を高めていくことができます。公民館事業でありながら、地域の特色や財産を使いながら皆さんの地域の方のご協力で行っているところです。文化財保護</p>

部長（続き）	課の職員もお邪魔して関わり説明をしたりとか、市の職員も行って例えば民具の説明をしたり、もっと公民館事業に市の行政の色々な機関が関わっていくことが良いのではないかと思いました。
委員	竹林保存会というのがありますよね。
委員	いきさつはわかりませんが、ある地主さんが竹林を寄付したそうです。その場所を誰かが管理しなければならず、タケノコ掘りを行っています。ここ何年か一時期中断したこともあったという話を聞いています。
委員長	他にございますか。
委員	新所沢東の公民館担当と今「学習ひろば」を開催していて、美原小学校・伸栄小学校・美原中学校の校長先生や教頭先生などの先生方とともに、「学習ひろば」という子どもたちの学ぶ場を提供するということでお願いしています。先生方も子どもたちが「学習ひろば」で学んだことを体験談として聞くことがあるそうです。子どもたちが自分たちで連れ立って勉強に行くのですが、帰りなどはお母さん方が見守ろうということで、パトロールをお願いしました。場所としては狭いところですが、その中でお母さん方や先生方の工夫が見られます。勉強の中から防犯活動の方もお母さん方がやってくれるというので、これからますます地域として公民館活動を進めていけたらと考えております。
委員長	他にございますか。
委員	<p>子育ての関係の講座や高齢者に対する講座に人気があるためか、皆さんの発表の中でどれもご紹介いただいています。社会教育委員との合同会議の時に、家庭教育学級が各学校にあるからかもしれませんが、小さい子と高齢者の間の青年の講座がなかなか開講できないということがあり、もう少し新しいニーズが出たらいいなと思いました。</p> <p>もう一つ、山口公民館でサークル連絡協議会が年2回草取りを行っているというお話がありましたが、各公民館で「草取りは職員がやっている」、「こういう人たちがやっている」などわかれば教えていただきたいと思います。</p>
事務局	公民館によって形態が違っているのですが、基本的には職員が草の生えてきた時期に草を取っています。

部長	<p>私が福祉部にいた時には、あづま荘の周りの草は自治会の方で草をとってくれていた話をかつては聞いたことがあります。地域の施設ということで、利用者みなさんや地域の方が自らやってくれるというのは大変ありがたいことですし、そういうところを子どもたちが見たりすることで、子どもたちもボランティアに関わったりしていくことが理想だと思っております。</p>
委員	<p>三ヶ島地区は公民館協力会というのが各地域の自治会の中から出されておりますので、広場も広いですし、幼稚園の子どもが遊びに来ますから、草刈りはしています。ですから他の地区も、地域の公民館のことは地域で行うと良いと思いました。</p>
副委員長	<p>今日は28年度の全体の事業を総覧するという、大変充実感のある報告をいただきましてありがとうございます。感想と課題をどう捉えるかについてコメントさせていただきます。感想としましては、高齢者を中心とした非常にきめ細かい、健康で元気な日常生活を送っていこうということを励ますような、多彩な事業が組まれていることを感じます。体育の面では専門的な指導者のお力を借りないといけないと思いますし、健康管理と言っても非常に細かく骨盤であったり、筋力であったりとかかなり科学的に目配りした講座が組まれていて、参加される方にとっては、やはりそこで出会って、講座前後におしゃべりしながらお互いの繋がりを確認するということでも元気澆刺の要因になると思いますので、やはり各公民館が中学区単位くらいで配置され身近であることと、交通が自由に使えない高齢者にとっても参加しやすいところで、これだけ広がりのある講座が組まれていることは素晴らしいことだと思いました。</p> <p>それから今までの公運審でも指摘があったことで、やはり子育て中の子どもたち、マタニティの方も含めたお母さんたちが集まって自由に悩みを分かち合いながら子育てを楽しめるような地域での繋がりがづくりに役立つ「キッズ広場」であったり、「子育てサロン」「マタニティカフェ」であったり、ネーミングも含めてとても豊かな地域で子育てという発信が公民館からなされているということで、各公民館が心を配り、非常に参加しやすい有意義な集まりになっている授業が幅広く展開されていると感じました。この子育ての方でもやはり保育士さんであったり、保健師さんであったり、場合によっては医師などの医療系の方々のご協力も得ながら、やはり問題がある時に相談に答えられるような機能も備えたようなたまり場作りが目配りされているということが大事だと思います。昔であれば、三世代の中でおじいちゃんおばあちゃんがいれば解決できるようなところが、核家族になって、小さなことでもすごく悩んだり、人に打ち明けられなかったりという孤独な子育てが問題になっておりま</p>

副委員長(続き)	<p>すので、そういう意味で広場作りを目指しているこの公民館の子育て支援は、非常に実のある事業として広がっているのではないかと感じました。これはほとんどすべての公民館に共通して取り組まれている事業ですので、その意味で所沢市公民館あげての高齢者・子どもたち・若いお母さんたちへの支援という風に、広がりのある実のある事業となっていて、評価できるのではないかと思います。</p> <p>すごく意義があるけれども必ずしも全体で意識されていない、今後は是非注目して広げていったらどうかとを感じるものとして、先ほどの討論で言われていた柳瀬の麦の講座です。これは年間で麦を育てて刈り取ってという形になっているのですが、この考え方は食育とか野外体験とか子どもたち自身の健康や環境、食物への関心を育てる意味で、この講座の陰に隠れた意味というのがとても大きいと感じます。通年での取り組みにしているという点が他にはできない。イベント型のクッキングなどは他でも広がっているとは思っていますが、やはり土地に根差して1年間一緒に何度か集まって作業しながら、最終的にはいただくところまで、食物の恩恵を刈り取って感じるのところまで循環させて自分たちが自然から恵まれたものを調理して、そして自分たちも元気になるという、ある意味人間と自然の循環、共生ということを感じさせます。この切り口は麦に限らず、非常に大きな学習テーマを内在させていると思いますので、事例としては柳瀬だけだったのですが、他の小手指や富岡では、伝統行事に取り組んでいらっしゃいます。伝統行事即食ではないのですが、やはり地域の歴史を皆で考えながら、今私たちの暮らしの中にある豊かさというのをどう捉えるのかということで、麦と繭玉をつなげて捉えたいと考えます。民族文化の研究ということで研究会があって、先ほど郷土資料館の話もあったのですが、こうした着眼から単に楽しくクッキングというレベルではなく、より深くこの地域の人々がどんな文化や食べ物を大切に、この地域が成り立ち、そして私たちが未来に向けて、例えば環境の問題であったり、食べ物や病気の問題であったり、いろいろなことをどう考えていったら良いのかという風に一步深いところで感じたり考えたりする心を促すような視点が、この柳瀬の講座には示唆されるものがあるのではないかと感じました。今日、質問も出ましたけれども、是非これを共通の関心事にして、次年度に向けて何かそれぞれの公民館で発展させていけると素晴らしいなと思いました。</p> <p>それから課題のことなのですが、先ほど99ページの統計を見て気になりました。平成24年度から4年間で約10万人利用人数が減っています。この減っている原因は何なのかという問題と102ページの登録サークル数ですが、全館で1,819の登録団体があるのですが、所沢市の人口34万人から考えて驚くほど少ないと感じました。他の私の関わっているところは多分この倍く</p>
----------	--

副委員長(続き)	<p>らいあって不思議ではないです。登録サークルに制約を設けているかどうかにもよりますので、それについては所沢の方式の中で、これが減る方向にあるのか増える傾向にあるのかということを確認させていただければいいのですが、少なくとも利用人口がなぜ減っているのか。先ほどから課題としてはサークルの利用人口の固定化、高齢化が出てきてはおりますが、今の時期は確かに高齢化も進んでいるのですが、団塊の世代の方が地域に戻ってきて何かを始めるといふ動きも広がっています。都市近郊の各地でお話を伺いますと、60代ぐらいの元気で社員であったような方が公民館の担い手になってきているという話をあちこちで聞きますが、活動内容もかなり新しいものが出てきています。所沢の場合に、必ずしも定年退職になった方が地域に戻ってくるという流れがまだできていなくて、そのことがこの利用人数の減少の一因になってきているのかなと考えられます。皆さん現場のことはよくご存知かと思しますので、なぜこのような傾向が出てきているのか、このままでいいのか。先ほど家庭教育のところでは中高生という問題が出たのですが、私は一番手堅いターゲットとして60代70代男性というところを考えていますが、個々の事業としてターゲットとされているものとしては、少ないかなと思います。「パパさん料理教室」というのが一つありましたが、昨日までバリバリ働いていた、「これから地域でボランティアやるぞ」というような方を是非公民館活動の大きなエネルギー源となっていくような方策を考えていくことが一つ課題だと感じています。</p> <p>あと一つ、私が関わっている国分寺の公民館での事例です。すべての中学校区で公民館があるのですが、そのすべての公民館5館で中学校2年生が開設する「パソコン教室」が行われて、これは中学生がお年寄りにパソコンを教える教室です。子ども若者を単にお世話する対象としてとらえるのではなく、この中高生たちは大人にも教えられる存在であるということで、公民館が彼らの力を地域で発揮してもらっている事業が全館で行われています。習っている高齢者側にも評判が良いのですが、中学生が人のものを教えられるということで大変自信をつけている話がありまして、これは日頃から学校と公民館とが地区の中でいろいろな対話があってこのような事業が実現しています。先ほど出ていた学習室の問題も関連してまして、国分寺は全部の公民館が学習室を開放していて、子どもたちが集団で学べる場所が用意されています。小中高生の出入りが多い公民館となっているのですが、所沢も環境的には国分寺とあまり変わらない環境になっていると思います。そう考えると、「保護する子どもたち」「楽しませる子どもたち」ではなくて、彼らの力を借りるという視点からの事業の発想で、現に他の地域で行われている事業をきっかけにして、中高生が参加者であり利用者であるという視点で新たな事業をどのように考えていくか</p>
----------	---

副委員長(続き)	の参考になるかと思い、ご紹介させていただきました。
事務局	<p>公民館の利用者についてお話をさせていただこうと思います。まず、ここ近年、築年数の経っている公民館については工事が入っております、今年で言うと小手指公民館は半年間、28年度で言うと新所沢東公民館・松井公民館、大小違うのですが数か月間貸館自体ができない状況がありまして、全館フル稼働できていない状態でございます。登録利用団体の数につきましては、この登録団体には公民館12館分しか記載はないのですが所沢市にはコミュニティセンターやコミュニティ会館、子ども福祉の未来館などサークル活動ができる場所が多岐に渡りまして、そこまでは統計資料はないのですが、この1,819という数は公民館に限っての登録団体ということでご了承ください。また登録が1地区1団体という考え方なので、他の公民館を利用はできるのですが、2か月前の抽選予約に登録できるのは1団体1施設となっております。</p>
委員長	事業報内容について、事務局から何かありますか。
事務局	利用者の推移については、先ほど話した通りです。
委員長	<p>議事(1) ②地域づくりにつながる公民館事業 次に「地域づくりにつながる公民館事業」について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料1をご覧ください。平成28年度公民館運営審議会の協議内容をまとめたものです。議題として「地域づくりにつながる公民館事業」が挙げられ、全体の方向性として今後の公民館事業の在り方についてまとめ、地域への公民館事業の広がりとして、公民館活動に参加するきっかけについてまとめました。</p> <p>また昨年度は初めての試みとして、「家庭教育」を題材に社会教育委員会との合同研修会を開催いたしました。事業報告集にも記載されていますが、各公民館においては「子育て広場」や「子育て学級」など、地域の子育てをする若い世代に対し、積極的に講座を開催している報告がありました。参加した若い世代の方々がその地域で子育てをする手助けになり、また公民館を中心とした地域活動に参加するきっかけとして、最も参加しやすいものだと考えております。教育委員会としては、学校・家庭・地域が一体となって教育行政を行っていくことを目指しており、その中で、公民館は地域の活動拠点として重要な役</p>

事務局(続き)	<p>割を果たしております。</p> <p>また各まちづくりセンターにおきましては、まちづくり協議会が設立され、地域の課題解決に取り組みながら、豊かな活力ある地域社会を実現するための活動が行われています。そのような地域活動の中で、公民館の役割や、公民館事業のあり方について、今後も考えていく必要があると感じております。本日は公民館運営審議会の皆様においては、今回の任期最後の会議となります。今までの議論のまとめとしまして、昨年の協議内容を参考に、今後地域づくりにつながる公民館事業についてご意見をいただきたいと思っております。</p>
委員長	<p>まちづくり協議会がある中で、公民館とは事業についてどういう課題があるのでしょうか。</p>
委員	<p>利用者数・サークル数減少という現象の中で、団塊の世代がちょうど地域に戻ってくる年齢ですが、公民館に行くといろいろなサークルで「後継者が育たない」と聞きますが、これはサークルに参加はしたいが、役員にはなりたくないという気持ちの方が多ようです。この現象は地域全体であります。公民館の事業含をめて、ボランティア団体、福祉サークル、PTAなど、すべての役員の意見として「後継者がいない」と聞きます。これはどういう現象かと考えると、核家族社会で地域に出ることに慣れていない、ボランティアに慣れてない。ボランティアに本当に熱心な方は、毎日公民館などの活動に参加するのですが、それ以外の方は参加するきっかけすら掴めないような、埋もれた人材がたくさんいると思います。そういう人たちを地域づくりに参加させるにはどうしたらいいかと考えてはいるのですが、なかなかこれというのが無いです。毎回お話しているのですが、きっかけがあれば参加して「この行事は楽しい」ということになれば「この手伝いをする役員もやってみよう」という気持ちになると思います。どこでどうしたらいいのか考えつかないのですが、そういうことがどこの地区でも課題としてあると思います。一番地域でまとまるスポーツイベントが十数年前まで各地区であったのですが、松井地区はそれが残念ながら無く「スポーツフェスティバル」という形で存続しています。その「スポーツフェスティバル」も体育指導員の方の関係者だけのイベントで、200人から300人ほどしか参加しておらず、他の地区のように1000人単位では参加できていない現状です。富岡・柳瀬・中央も各地区でそれぞれやっていますが、参加人数の規模が違います。それを松井地区でも地域公民館の役員さんからも出ていて、まだ計画の段階ですが今年の秋の体育祭シーズンに東所沢駅近くの和田地区公民館と合同でスポーツフェスティバルを開催してみようかと計画しています。なにかアイデアを出さないと、尻つぼみになってしまう</p>

委員(続き)	<p>ので、みんなで考えていきたいと思っています。</p>
委員	<p>今のお話に関連して、新所沢東でも考えております。われわれ町内会で考えておりますのが、運動会などのスポーツの事業になるべくお子さんを連れてゲームをたくさんするという事です。新所沢東では昨年スポーツで1000人、今年は1500人くらい参加するのではないかと思います。一つの例としまして、800人から1000人集まったことがあったのですが、ある地域に新しく住宅ができたので、子どもさんと参加してくださいと伝えて、ゲームなどをたくさん用意しました。責任を持たせるとかいろいろな役を作るよりも、うまく育てることが大切だと思います。必ず出なければならないということではなく、きっかけを与えること。まず、私たちはお母さん方にお話して、お母さんからお父さんに言ってもらってお子さんと来てもらう。体育祭でもリレーなどの競技より、みんなでできる競技を行うようにしました。それによってだんだん参加者が増え、防災訓練の参加者も増え、公民館と地域の活性化につながったと思います。</p> <p>60代70代の方にスポーツ行事への参加を呼びかけ、その中から地域とのつながりが出てきたらいいなと思います。</p>
委員	<p>102ページの登録サークル数について、文化施設スポーツ団体が吾妻・山口公民館で30とあり、それ以外はゼロに近い数字なのですが、どのように集計されているのでしょうか。会館を利用していない未登録団体や数字に表れないサークルが存在しているように感じています。</p>
事務局	<p>地区体育館がある施設については、市民体育館と同じ登録システムをとっておりまして、吾妻公民館と山口公民館は体育館ではなく体育室という公民館の別の部屋と同じ扱いになっております。つまり体育室を他の会議室と同じように利用している形態が多いので、登録団体数に違いがあります。</p>
委員	<p>体育室と体育館の違いは何ですか。</p>
事務局	<p>基本的には大きさの違いです。地区体育館については、また別に地区体育館条例というのを設けておりまして、山口と吾妻においては公民館の一室として体育室を設置しております。</p>
委員長	<p>吾妻と山口は体育室ということで使えるが、他は違うということですか。</p>

事務局	<p>吾妻と山口は体育室ということで、公民館と同じ取扱いになります。市内5館の地区体育館については、利用形態が違っており、例えば市民体育館と同じく個人の利用が可能になっております。</p>
部長	<p>数字としてゼロが入っておりますが、体育施設を利用して活動している団体が各地区存在していることは事実です。地区体育館条例ということでスポーツ振興課が管理しているだけのことであって、実態としてはスポーツ施設を利用しているサークルであることに変わりはありません。ですから、この表の欄外に「地区体育施設を利用している団体はこれだけある」と標記することも必要であると思っております。</p>
委員長	<p>他にありますか。それでは各委員さんから出た意見につきましては、今後の活動に取り入れていただければと思います。</p>
副委員長	<p>今の議題は地域づくりにつながる事業ということで、定年退職後の方たちがどうやって地域の公民館で活躍できるようになるかという大きな流れができると良いですねという、先ほど私がお話したことに関わった発言がいくつかあったのですが、他の自治体の事例を一つご紹介します。東京の千代田区で「生涯学習カレッジ」という、財団が運営している全区的なセンターになっている施設で、定年退職者をターゲットとした2年間のコミュニティカレッジという事業を実施して、定員30数名のところから50名以上の応募があり、抽選するほどだったそうです。今年第2年度が始まったのですが、次の募集も定員オーバーしています。去年私が開講の講座に呼ばれたのですが、30代から70代まで、地域の公民館で全く見たことがないような顔ぶれの受講生がいらっしゃって、定年後の自分の人生のキャリア設計をし直す人がいることにとても驚きました。この講座は2年間で何を学ぶのかということ、要はボランティアのやり方を学ぶ講座です。「ボランティアとは何か」という高度な理論的なところが組まれていて、その上でボランティアの視察をします。都内の事例ですが、講師と一緒に掛けて行って、行われているボランティア活動の実地見学を行い、それをもち帰ってワークショップをするものです。最後の完成のところで私が講座を組んでおり、全国からボランティアリーダーになっているような方をお招きして、ゲストスピーチを受けての生徒さんとの話し合いをするもので、非常に注目されています。具体的には、岩手県遠野市において若者人口減少で困っている時に、富士フィルムと連携して「未来カレッジ」を運営している方や、熊本地震の被災者の方などをお招きしてお話を伺う企画です。地域づくりと公民館というテーマで考えていったときに、公民館というのは一番身近</p>

副委員長(続き)	<p>で誰もが気楽に参加でき、出会いが生まれる場所であり、そこから、自分も地域の一員として何かお手伝いしようかと思えるような地域ぐるみの活動を丁寧根付かせていくことが公民館の主要な役割であると考えています。ただ、ずっと企業で働いてきた方たちが、公民館というところが自分たちにかかわりのある場であると再発見するチャンスが無いままに終わってしまうと、もったいない老後になってしまいます。ですから例えば、すべての公民館ではなく、重点的に中央公民館が定年退職後の帰ってくる方をターゲットにして、今までにないような講座を組んでみて、それを受けて地元の公民館が中央公民館と連携してボランティアのワークショップを複合的に組んでいく。それぞれの公民館が地域ごとに事業を行う公民館らしさというものはベースにあるけれども、そういう意識を持っている相手を何とか地元へ引っ張り込もうと思ったときに、講座の組み方等を工夫して、地域を越えた連携事業や全市的なものという位置づけで、はっきりとしたターゲットに向けて発信をしていくというものを考えていくというのも、一つの方法として検討に値すると思います。</p> <p>また蕨市で社会教育委員をやっているのですが、ここは音楽のまちづくりというのを目標にして、全部の公民館が音楽事業に取り組んでいます。市民が自ら演奏する参加型の事業だけではなくて、市内在住のプロの音楽家の方たちに協力していただくという場面を作っています。例えば、子どもを対象とした「音楽大学」があります。小学生が音楽大学で専門家の指導を受けて、50人くらいの子もたちが最後に協力して演奏会をするという事業です。音楽なら音楽というジャンルに絞り込んだ質の高い事業を創造することを目指しています。皆にとって参加しやすい楽しいと思える広がりのある部分と、自分にとってそれが深い学びの場になるという質の部分と、どのように少ない事業や人手の中で作り出していけるのかということが無いと、「地域づくり」というのがまちづくり協議会と同じことになってしまうのではないのでしょうか。公民館らしさというのをどのようにまちづくりの中で考えていくのかということ、是非これまでの公民館の実績を踏まえて、公民館ならではの地域づくりがあるということの発信につなげていくための工夫について、次期の公民館運営審議会などで御議論いただき、さらなる可能性を広げていただけたらと思います。</p>
部長	<p>ただいまの千代田区のお話、大変興味深く伺いました。所沢市でも「市民大学」と「高齢者大学」という二つの大学があります。確かにどちらも年配の方が多くなってきてはいるのですが、先ほどのお話にあったボランティアに特化した講座は確かに重要だと感じました。本日、生涯学習推進センター長も出席しておりますが、市民大学・高齢者大学を卒業した方たちが地域に出て活躍をしていただけるかということ、そういうノウハウが大学の中に無いですから、な</p>

<p>部長（続き）</p>	<p>なかなか地域活動に結びつかないという問題があることも事実です。ですから、高齢者大学や市民大学で公民館の活動などをどんどん紹介して、地域で皆さんに活かしていただけるような仕組みを作っていかなければならないと思いました。生涯学習推進センターでは人材育成をテーマに2年間プロジェクトチームを作って、地域のための人材育成に取り組み、冊子を作って報告しました。どうしたら人材が地域で育つのか、こうした大学を出た方が地域で活躍していただけるのか、行政としても課題としながら、考えていきたいと思いました。</p>
<p>副委員長</p>	<p>人と機会がうまくつながって循環していけるような、一人ひとりの意識が向くような見える形での連携ができると良いと思います。自分の部署のところだけこなすのが精一杯で終わってしまうと、アドバイスもできないようになると思います。折角頑張っているところがあるのに、そこだけで終わってしまうと勿体ないですね。</p>
<p>委員長</p>	<p>「その他」に行きたいと思います。 事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>議事（2）その他</p> <p>社会教育課と公民館が共催で行っている事業につきましてご説明させていただきます。</p> <p>95ページをご覧ください。まず人権教育ブロック別研修会を毎年行っております。地域の要望や課題解決を目的とした事業も大切ですが、行政の責務として、差別をしてはならない、どのような行為が差別にあたるかなどの人権問題を広く市民に対して啓発していくことも社会教育の大事な事業であると考えております。今後も多くの地域住民の方にご参加いただくためには各公民館のご協力が不可欠となりますので、今年度の人権教育ブロック別研修会開催の際には、地域の各団体への参加の働きかけをよろしくお願い致します。</p> <p>次に、資料2をご覧ください。子ども会育成者研修会についてですが、毎年、市内に21校区ある子ども会育成会の役員改選時期に合わせ、3月から4月にかけて、公民館事業として8地区の公民館で地域研修会を開催しております。地域で子どもを育てることを目的に、地域住民の活動拠点でもある公民館において事業を行っております。</p> <p>資料3をご覧ください。成人のつどい事業についてですが、毎年、各公民館を中心に地域で組織された「成人のつどい実行委員会」による分散方式により、地域の方々と交流を図りながら行っております。平成28年度につきましては、市内全体で67.3%の出席率でした。</p>

事務局（続き）	その他、家庭における教育力の向上に向け、社会教育課の事業である家庭教育学級の講座を公民館でも行っております。
委員長	成人のつどいの出席率について地域によって随分違いがありますね。
事務局	地域で催しを行っているのですが、学区と地域が必ずしも一致しておりませんので、学校が中心となる地域の方に流れている傾向があります。地域にまたがって学区がある場合など、どちらの地域に出席しても良いことになっています。学区と行政区域が一致していない点もご了承いただければと思います。
委員長	会場も関係するのでしょうか。
委員	地区で実行委員会をやっていたのでわかるのですが、やはり子どもたちは同窓会的な感じで成人式に集まる雰囲気があって、ハガキにも必ずしも「ここに行きなさい」と書かれているわけではないので、都内にお引越された方がこちら目指してやってくる場合もあります。
事務局	資料3の一番下にもある通り、富岡地区につきましては富岡・向陽・中央・北野中学校の4校の中学校区にまたがり、多くが他地区に出席している状況でございます。
館長	山口の成人の集いの出席者率を見ていただくとわかると思いますが、パーセンテージが非常に高くなっています。これは、いろいろな地域の方が来るからという理由だけでは説明がつかないと思っています。対象となるのは山口中学校と上山口中学校なのですが、実際に成人の集いに出席されている方に聞いてみますと、中学校3年生の卒業時に成人式で会おうと約束し合っているようです。そういう伝統みたいなものが、山口中学校と上山口中学校にはあると聞いております。それから西武球場前からすぐに行けるカントンテーブルという場所で成人式などを行っているという交通の便の差というのも若干は影響していると考えております。
事務局	今回地域づくりにつながる公民館事業につきましてご協議いただきました。いただいたご意見につきましては、今後の公民館事業の運営に活かしていきたいと考えております。
委員長	では、他になければ、これで議事は終了いたします。どうもありがとうございます。

委員長（続き）	いました。
事務局	<p>4 事務連絡</p> <p>内野委員長、議事進行ありがとうございました。皆様ご多用のところ、ご出席賜りありがとうございました。なお、本日は任期中の最後の会議となります。委員の皆様には2年間に渡り、様々な視点よりご審議いただき誠にありがとうございました。では、最後に閉会の挨拶を佐藤副委員長にお願いします。</p>
副委員長	<p>5 閉会</p> <p>2年間、回数は少なかったのですが、所沢の場合11の公民館がそれぞれ分厚い伝統のある取り組みをされているので、それぞれの地域から出されるご発言やご意見にとっても重みがあると感じております。11の体制を今後とも維持しながら職員と欠くことのできない住民団体とが協力しながら、公民館らしい活動とは何かということを中心に深く考えていくこと。また、今回は、たまたま地域づくりを目指すというテーマだったのですが、かつて地域づくりは当たり前でした。今は工夫して地域づくりを再度考えようと全国的に関心が高まっているテーマでありますので、今回で終わったとは思っておりません。是非次期へ引き継いで、またこのテーマも所沢らしく展望のある議論を实らせていただきたいと思います。2年間ご協力ありがとうございました。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、公民館運営審議会を終了とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。</p>